

地理歴史科（地理B）学習指導案

- 1 履修単位数 4単位
- 2 実施日時 令和3（2021）年 11月 24日（水） 第3時限
- 3 学 級 2年
- 4 使用教科書等 『新詳地理B』（帝国書院）『新詳高等地図』（帝国書院）
- 5 単 元 名 資源と産業 日本の農林水産業
- 6 単元設定の理由

〈生徒観〉

クラスの生徒は日々真面目に授業に取り組んでいる。また、与えられた課題等に対しては真剣に取り組む。しかし、基礎的・基本的な知識や技能の定着が十分ではなく、知識を問う質問の解答につまることがある。また、その知識をもとにした思考力を問う発問は苦手であり、知識や技能の定着を図るとともに地理的な見方や考え方、主体的な学習態度を養っていく必要がある。

〈教材観〉

本単元は、日本の農業、林業、水産業の特色や、農産物の貿易の自由化が世界的に進むなかで日本の農業が抱える課題とその対応を理解させることができる。また、日本の水産業の変化を理解させるとともに、水産物輸入の増加について考察させることができる。そして、日本が抱える問題の過去・現在の原因を考察し、未来に起こりうる問題を想定しそれに向けた対策なども考察できる単元である。

〈指導観〉

前回までに世界のそれぞれの地域の農業の特色や、遺伝子組み換え作物、プランテーション農業などの問題点や、穀物メジャー・アグリビジネスなどの特徴について考察をしてきた。そのような中で日本の農林水産業が世界より受けた影響で大きく変化してきた推移などの理解と合わせて、現在の国内の状況や今後日本の農林水産業がどのようになるのかを考察させたい。

7 単 元 の 目 標

【基軸となる問い】

「世界や日本の農林水産業は今後どのように変化していくだろうか」

世界の農業の特色を理解するとともに、グローバル化により農業も世界の経済的な動向や政治情勢などに大きく左右されること、そのような中で日本も戦後以来多様に農林水産業の形態を変化させてきたことを理解し、現状を確認するとともに、今後世界や日本の農業がどのように変化していくかを考えることができる。

8 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
世界の農林水産業について、現代世界と日本の農林水産業に対する関心と課題意識を高め、農業の成立条件などを踏まえてそれらを意欲的に追究し、捉えようとしている。	現代世界や日本の農林水産業の現状と課題を多面的・多角的に考察し、その過程や結果などを適切に表現できる。	現代世界や日本の農林水産業の生産や分布の特徴に関する統計などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、農林水産業の現状や課題について読み取ることができる。	世界の農林水産業について、自然条件や社会条件の違いと関連付けて農業の地域区分や各農業の特色を理解し、その知識を身に付けている。

- 9 指導計画 単元名「世界の農林水産業」 全6時間
- 第1次 農業の発達と分布・・・・・・・・・・1時間【思】【知】
- 第2次 農業の地域区分・・・・・・・・・・2時間
- 第1時 世界各地の自給的農業の立地の現状と特色【知】
- 第2時 商業的農業・企業的農業の立地と発展の背景【思】
- 第3次 現代世界の農業の現状と課題・・・・・・・・1時間【思】
- 第4次 世界の林業・水産業・・・・・・・・・・1時間【関】【思】
- 第5次 日本の農林水産業・・・・・・・・・・1時間【思】【技】（本時）

単元の指導計画

次程	学 習 活 動	関	思	技	知	評価規準等
第一次 1時間扱い	【副次の問い】 人間は自然条件をどのように克服して、作物の生産地域を拡大させてきたのだろうか					
	○農業生産活動と自然との関わりを考え、そこから生じる問題点について考察する。	●				◎気候区分で学んだ知識と資料集などを使い、人類が自然を克服してきた努力と課題について説明できる。（ワークシート）（生徒観察）
	○地域により異なる農業地域が分布することを理解し、諸条件との関わりについて考察する。			●		◎ホイットルセイの区分を参考に、気候区分との関わりと農業を関連づけようとしている。（ワークシート）
第二次 2時間扱い	【副次の問い】 世界各地の自給的農業や商業的農業はどのようにして成立したのだろうか					
	第1時 ○世界各地の様々な自給的農業の立地の現状と特色を理解し、その背景を自然環境や社会環境、歴史的経緯などから考察する。			●		◎自給的農業の地域的な相違点を理解し、その背景を説明することができる。（ワークシート）
	第2時 ○商業的農業・企業的農業が立地・発展した背景を、自然環境や社会環境、歴史的経緯などから考察するとともに、経済的な規模を調べる。	●				◎商業的・企業的農業の発展した背景を説明でき、世界での影響力を調べてまとめることができる。（ワークシート）（発表）
第三次 1時間扱い	【副次の問い】 穀物メジャーが世界に与える影響はどのようなものがあるだろうか					
	○農業の国際化がそれぞれの国の農業や人々の生活に与える影響を理解し、穀物メジャーが農産物の流通において果たす役割と影響力について各班で調べ、発表する。	●				◎複数の資料から考え、自分の意見をグループの中で表現しまとめることができる。（ワークシート）（発表）

次程	学 習 活 動	関 思 技 知	評価規準等
第四次 1時間扱い	【副次の問い】 世界の林業・水産業と、日本はどのような関わりがあるだろうか		
	○世界のそれぞれの地域の樹木の種類と日本の樹木の種類を比較して相違点を調べる。 ○世界各地の森林の特色を学び、さまざまな森林の利用方法について理解する。また水産業の漁場の成立条件や特色を理解する。世界の林業・水産業と日本との関連性を調べ考察する。	● ●	◎多種多様な樹木について関心を持ち、積極的に調べ授業に参加している。（ワークシート）（生徒観察） ◎林業・水産業の特色を理解し、日本の多くの身近なモノが外国からのものであることを調べ、海外依存度について考察することができる。（ワークシート）（生徒観察）
第五次 1時間扱い	【基軸となる問い】 世界や日本の農林水産業は今後どのように変化していくだろうか		
	○回転ずしの魚やネタはどこから来るのかを考えたり、インターネットで調べる。 ○日本の農業（林業、水産業）について現状を踏まえた上で、今後どの様になっていくかをグループで話し合う。	● ●	◎インターネットから情報を集め、表に適切にまとめることができる。（ワークシート）（生徒観察） ◎既存の知識や教科書・資料などをもとに考え、グループで積極的に意見を述べるができる。（ワークシート）（生徒観察）

10 本時の指導目標

日本とアメリカやその他の国と農林水産業の形態について比較するなかで日本の農業の特徴や課題を考察し、今後日本の農林水産業がどのようになっていくか考察し推測をするとともに、世界の農林水産業の課題解決に向けて考えたり取り組んでいく重要性に気付く。その際、ICT ツールや MetaMoji を使うことで、グループ学習を通して様々な意見を効率よく比較して知識を深めることができる。

11 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
導入 10分	SQ 日頃利用する回転ずしの魚や商品はどこから来ているだろうか			
	・回転ずしの魚やネタはどこから来るのかを考えたり、インターネットで調べる。	・調べ活動ができていない生徒には、回転寿司店のホームページを検索させ、「原産地情報」を探すように指示する。	・インターネットから情報を集め、表に適切にまとめることができる。【技】	生徒観察 MetaMoji(ワークシート)
	・日本とアメリカの農業形態を比較し、違いに気付く。	・具体的にイメージできない生徒には、企業的農業を参考にしたり、資料集の該当ページを参考に考察するように指示する。		

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
展開 30分	展開Ⅰ ・日本の農業政策について、第二次世界大戦以降の変遷について考える。	・歴史的な変遷について順序立てて整理するように伝え、日本の農業政策がグローバル化によりどの様に変化したのか考えさせる。		
	展開Ⅱ			
	SQ 日本の林業の特徴とその要因は何か			
	・資料集のグラフや配布資料から日本の林業の変遷を捉え、近年の自給率上昇についてグループで話し合う。	・木材供給量の減少理由も合わせて考えさせる。	・論理的に複数の資料から考え、グループで積極的に意見を述べるができる。【思】	生徒観察 MetaMoji(ワークシート) 発表
	SQ 日本の遠洋漁業が衰退した理由はEEZの設定以外には考えられないか			
	・遠洋漁業が衰退した理由を各自で考察する。	・排他的経済水域の設定、石油危機、嗜好の変化、輸入価格の低下など様々な要因がある可能性に気付かせる。		
まとめ 10分	MQ 日本の農林水産業は今後どのように変化していくだろうか			
	・日本の農業（林業、水産業）について現状を踏まえた上で、今後どの様になっていくかをグループで話し合う。 ・本時のまとめを聞く。	・ブランド化、ICT活用（スマート農業）、大規模化・企業化、国の支援による維持など多様な意見が出るように促す。	・既存の知識や教科書・資料などをもとに考え、グループで積極的に意見を述べるができる。【思】	生徒観察 MetaMoji(ワークシート) 発表

※評価及び指導

【資料活用の技能】

「十分満足できる」と判断される状況	日本の農業の未来について、教員が提示した資料や今までの授業の成果を含めて、複数の要因をあげてMetaMojiで適切に表現している。
-------------------	---

「おねむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	提示した資料以外に，教科書や資料集，授業プリント，ワークシートなどを参考にするよう促す。
-----------------------------	--

【思考・判断・表現】

「十分満足できる」と判断される状況	世界や日本の現状や課題について理解し，積極的に意見交換をグループの班員と行い，論理的に整合性のある，未来に向けて前向きなことを含めた複数の答えを出せている。
「おねむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	現状を理解するために，身近な地域の状況を考えさせ，それを解決するためにまずはどのような取り組みをすべきかを班員と話し合い，学び合えるよう促す。

